

## 統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 21年 6月 10日

氏名： 石渡 明

所属 (職名)： 東北大学東北アジア研究センター (教授)

会議名	SSEP (科学立案・評価パネル)
期間 (移動を含む)	平成 21年 5月 25日 ~ 平成 21年 5月 28日
用務地 (国・都市)	オランダ・ユトレヒト
目的	IODP に提出された提案書の評価、及び外部評価を受けた提案書の評価 (5段階区分)

### 会議内容及び報告事項

会議に先立ち24日(日)の午後にユトレヒト市内の地形と地質および建造物に用いられている石材についての野外見学が行われた。案内は今回のホスト委員である H. Brinkhuis と学生3人であった。その後市内のレストランで自由参加の夕食会があった。

今回の会場はユトレヒト市内の五ツ星の Grand Hotel V Utrecht の大会議室であり、分科会は2階の小部屋も用いた。委員各位への電源供給、無線 LAN によるインターネット接続、コーヒー・紅茶・菓子や昼食の提供など、サービスは充実していた。多くの委員が宿泊したホテルから中央駅を歩いて徒歩15分ほどの便利な場所にあった。

25日(月)午前8:30から会議が始まり、H. Pälike が議長を務めた。開会宣言、会議場などの説明、委員(出席30名(新委員3名、代理3名を含む)、欠席2名(代理3名を除く))及び陪席者(各組織・委員会代表、出席17名、欠席5名)の自己紹介、議程表の承認、前回議事録の承認、議事次第の説明、各委員会(SPC、SSP、EDP、CDEX、USIO(+LDEO)、ESO)、IODP-MI 報告、及び MS-PHDs プログラム(引率1名、学生5名)の説明があり、最終日に2013年からの IODP の新しい科学計画について議論することについて説明があった。日本の新委員は池原 研及び鈴木庸平である。25日午後は、まず Pälike から2つの分科会への提案書の割り振り、評価基準、利益相反、評価報告書の執筆と提出などに関する説明があり、その後「固体地球・深部生物圏」分科会(議長は M. Torres と石渡 明、提案書11本)、「環境」分科会(議長は Pälike、提案書12本)に分かれて評価・区分を行った。今回はウォッチドッグの数は提案書1本当たり4人または5人とし、1人当たりの担当提案書数は4本であった。また、2つの分科会で1人のウォッチドッグが担当する提案書の審議が重ならないように、予め提案書審議の順番を設定して全員にメールで配布し、今回から審議の順番を議案書(agenda)にも記載した。だが、分科会によって審議の進行速度が異なるため、多少重なる場合もあった。夕刻に市内の運河沿いの料理店で歓迎晩餐会が催された。

26日(火)は終日分科会を行い、夕刻までに全ての分科会で評価・区分を終了した。

27日(水)は終日全体会議を行い、23本の提案書の評価・区分を順次確定していったが、全部終了することができず、一部は翌日に持ち越した。夕刻に市内中心部の高い鐘楼の近くのユトレヒト大学の建物で公式晩餐会があった。

28日(木)は、まず残りの提案書の評価・区分を確定し、続いて INVEST に関する議論を行った。委員全員が次期の科学計画についての意見を述べ、それらを後日議長がまとめて SSEP としての意見を INVEST に送ることになった。また、IODP - MI の事務所移転に関する情報が新たに得られたことから、この問題について SSEP の懸念を SASEC 及び Board of Governor に伝えるべきであるとする動議が提案され、その文案について審議し、修正の上可決した。続いて次回2009年11月の SSEP 会議を同月16日の週にオーストラリアのメルボルンで行うことを決定し、ニュージーランドの G. Wilson (オーストラリアの S. Gallagher の代理)から会場などの紹介があった。また、米国の M. Torres 共同議長から、2010年5月の SSEP 会議は本来米国の順番であるが、

やむを得ぬ事情のため日本でお願いしたいとの提案があり、日本側も了承し、候補地として高知を挙げた（ホスト候補：稲垣史生）。次に、今回で退任する SSEP 共同議長の H. Pälike の後任の選挙が行われ、投票の結果、全員一致で今回のホストであるオランダの H. Brinkhuis を選出した。次に MS-PHDs の発表があり、続いて、今回で退任する 9 人の SSEP メンバー、T. Elliott (H. Pälike), I. Aiello (R. Harris), R. Zierenberg (P. Vrolijk), J. Jaeger (Y. Rosenthal), M. Gurnis (M. Torres), D.C. Kim 金 大喆 (石渡 明), 木村純一 (高澤栄一), 西 弘嗣 (黒田潤一郎), 鈴木 淳 (同) に対して、それぞれカッコ内の方が歓送のプレゼンテーションを行った。最後に H. Pälike 共同議長が閉会の辞を述べ、会議が閉幕した (17:00 頃)。各主任ウォッチドッグはこの日のうちに評価報告書を IODP-MI の担当者に提出した。

23 本の提案書の評価結果は、まず外部評価済みの提案書 3 本はいずれも SPC に上程し、そのうち 1 本は 5、2 本は 4 の区分とした。その他の 20 本については、SPC に上程する APL 提案書 1 本、外部評価に進むフル提案書 2 本、修正後再提出させるフル提案書 2 本、フル提案書として提出させるプレ提案書 5 本、修正後再提出させるプレ提案書 4 本、修正後再提出させる CDP 提案書 1 本、却下 (Deactivate) する提案書がフル 2 本、プレ 2 本及び APL 提案書 1 本となった。

今回は都合により 1 日目を欠席した欧州の委員が 1 人いた (事前連絡あり)。また、頭痛のため 3 日目の審議を欠席した米国の委員がいたが、順番を変更し、その委員が出席した 4 日目にその委員担当の提案書の評価を行った。今回の会議は、新型インフルエンザが世界で問題化している中での開催だったため、所属機関によっては委員の出発が危ぶまれた場合もあったが、結局は出席予定者の全員が会議に参加でき、感染者が出なかったことは幸いだった。

備考	
----	--

#### 事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等

現地のホストから次回会議の日程などについて照会があった場合は、共同議長にもその内容を知らせてほしい。今回もオーストラリア・ニュージーランド側が提案した日程が米国の休日などとの関係で一部の委員の日程と合わず、彼らの当初の日程を変更する必要が生じた。昨年も同様のトラブルがあり、米国側が日程だけでなく開催都市まで変更せざるを得ない事態になった。このような事態はホストに大きな負担をかけるので、共同議長、現地ホスト、IODP-MI 間の日程に関する連絡をもっと密にしてほしい。